



松代地区内  
ごあんない

カーナビでの検索  
長野市松代町松代1460-3と入力  
してください。  
紺屋町の交差点を南に進み象山記念館  
の交差点を右折せず、直進して左手  
です。

松代象山地下壕

●気象庁松代地震観測所(施設外から一部見学可)



## 第二次世界大戦の遺跡 松代象山地下壕

長野市松代町西条479の11(管理事務所所在地)

見学できるのは、西条口(恵明寺口)から  
約500mの区間です。見学者の安全のため  
照明や柵、落石防止の支保工などが施されて  
います。壕は素掘りのままです。

見学料=無料

午前9時～午後4時まで

(地下壕へは午後3時30分までにお入り下さい。)

・休み:第3火曜日及び年末年始(12/29~1/3)  
但し、第3火曜日が祝日の場合は公開し、  
その翌日を休壕日とします。また、8月15日  
(終戦記念日)は第3火曜日の場合でも  
公開し、その翌日も休壕日とせず公開します。

・車は代官町(象山東)駐車場に駐車できます。

代官町(象山東)駐車場所所在地:長野市松代町松代1460-3  
(徒歩7分・無料)

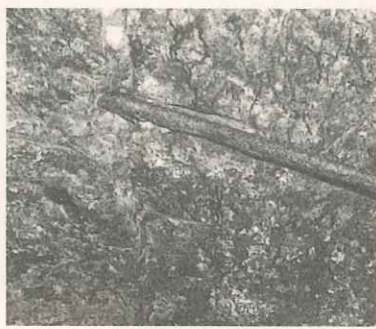
・大型バス7台、普通車8台駐車可

R6.3

# 壕内の主な遺物



岩に残る削岩用ロッド跡



岩につきささったままの削岩用ロッド(約70cm)



ずりを運んだトロッコの枕木跡



天盤にある壕の東西、水平を測った測点

■地下壕は、できる限り当時の状態のまま保存しておりますので、風化等により大変もろく崩れやすくなっている箇所や天盤が低い箇所があります。  
見学時は次のことを守って入壕してください。

※ヘルメットを用意してありますので必ず着用してください。

※壕内でのつまずき、スリップには充分注意するとともに結露による水滴にも注意してください。

また、壕内の地面は凸凹しておりますので、サンダルやヒールのある靴でお越しの際は充分お気をつけください。

※壕内は、音などの振動により崩れるおそれがあるため、御静粛にお願いします。

※壕内では、飲食、喫煙、落書き、集会等、他のお客様に御迷惑になる行為はお断りします。

※ゴミの持ち帰りに御協力ください。

# 松代象山地下壕とは

松代大本営地下壕は、舞鶴山(現気象庁松代地震観測所)を中心として皆神山、象山に基盤の目のように掘り抜かれ、その延長は、十キロメートル余りに及んでいます。

第二次世界大戦の末期、軍部が本土決戦最後の拠点として、極秘のうちに、大本営、政府各省等をこの地に移すという計画のもとに、昭和十九年十一月十一日から翌二十年八月十五日の終戦の日まで、およそ九箇月の間に建設されたもので、突貫工事をもって、全工程の約八割が完成しました。

この建設には、当時の金額で一億円とも二億円とも言われる巨費が投じられ、また、労働者として多くの朝鮮や日本人々が強制的に動員されたと言われています。

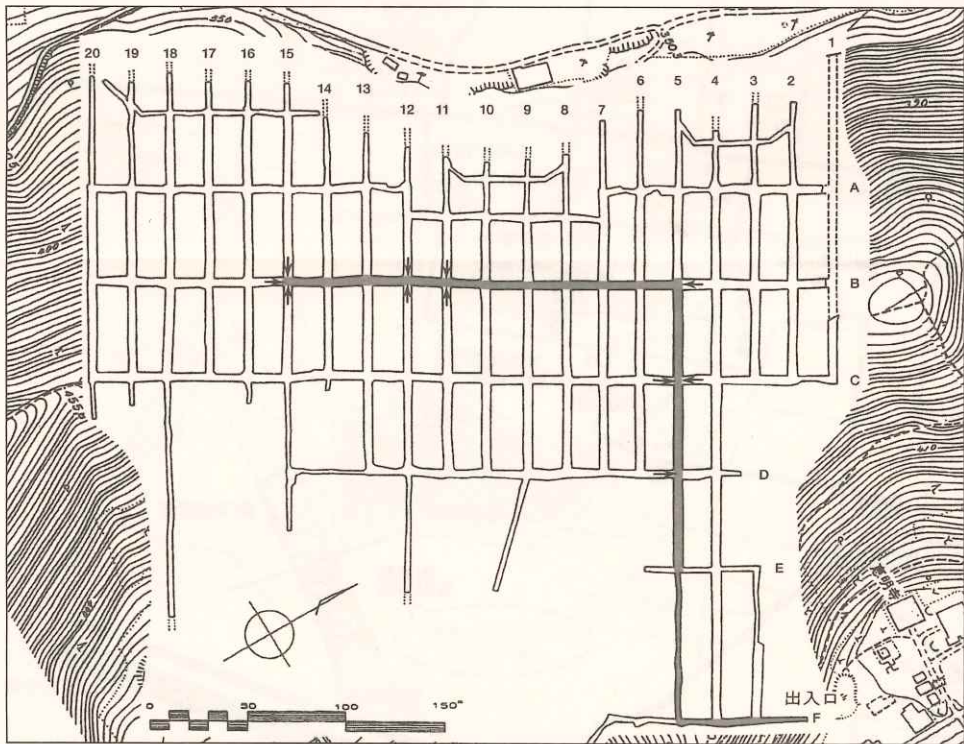
なお、このことについては、当時の関係資料が残されていないこともあり、必ずしも全てが強制的ではなかったなど、さまざまな見解があります。

工事は、一日二交替から三交替で進められました。食糧事情が悪く工法も旧式な人海作戦を強いられ、正確な数字はわかりませんが犠牲者も出たと言われています。

戦後は、訪れる人も少なく忘れ去られようとしていましたが、平和な世界を後世に語り継ぐ上での貴重な戦争遺跡として、多くの方々がこの存在を知っていただくため、平成元年から壕の一部を公開しています。



松代地下壕の位置



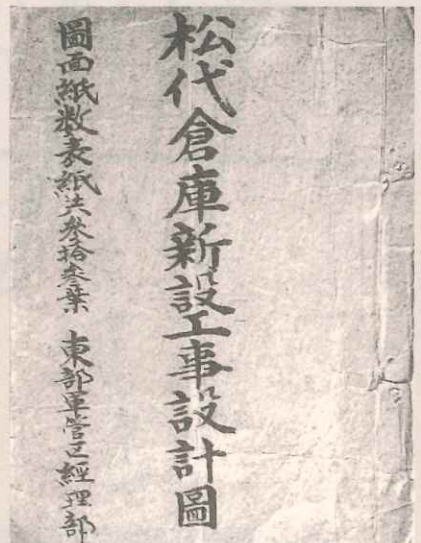
見学できるコース(延長約500mの区間) → 投光器

## ◆松代象山地下壕の現況

総延長: 5,853.6m  
概算掘削土量: 59,635m<sup>3</sup>  
床面積: 23,404m<sup>2</sup>

なお、松代象山地下壕は、平成15年10月に文化庁による「近代遺跡詳細調査」が実施されました。その調査結果を待ち、今後における地下壕の保存方法などを再検討していく予定です。

## 防衛省に当時の設計図が保存



防衛省・防衛研究所戦史研究センターに保存されている松代倉庫(象山地下壕)新設工事設計図。地下壕の断面は、底長四メートル頂高二・七メートル。二十メートル間隔に掘削されており、五十メートルごとに横の連絡坑がある。壕は倉庫と呼び、イ号(象山)ロ号(舞鶴山)ハ号(皆神山)の三か所で掘削された。